



ふ た ば か ら の
お た よ り で す 。



ふたばの教育は、生まれ変わります。

お元気
ですか？



双葉郡教育長会会長、
大熊町教育委員会教育長

武内敏英

ふたば出身の君たちよ、
ふるさとを胸に大きく羽ばたけ！

双葉郡の8町村では、2012年から、双葉郡全体で子どもの教育を守っていこうという取り組みを進めてきました。協議会を立ち上げ、双葉郡教育復興ビジョンを作成し、今それぞれの場所で頑張っているふたばの子どもたちのために、双葉郡独自の教育を新たに生み出して発信しようとしています。

震災・原発事故を経験した私たちは、価値観を大きく転換しなければなりません。これからの時代に求められるのは、物やお金だけを重視する生き方ではなく、命や心、一人ひとりの人間性を大切にす価値観です。また、双葉郡の課題を乗り越えるためには、受験のための学力だけではなく、復興に貢献したり世界に羽ばたく力が必要です。だから子どもたちには、大切な時期を受験勉強に費やさず、いい先生や友だちとめぐり会って卒業後の生き方をゆったりと考えてほしい。そんな思いで、郡内に新しい中高一貫校を設置する準備も進めています。

今、多くの子どもたちが避難を余儀なくされている状況にいるからこそ、双葉郡出身であるというアイデンティティと誇りを大事にしてほしい。また、地域の外にも視野を広げて、「片足はふるさとに、もう片足は世界へ」という気持ちで、たくさんのことを学び続けてほしいと思っています。若い君たちの夢をかなえるために私たちも一丸となって、これまでの価値観にとらわれない思い切った取組を進めていきます。ともに学んで、復興への歩みを進めて行きましょう。

「双葉郡教育復興ビジョン」のご紹介

P.3-4を
ご覧ください

子供未来会議
(2013年3月～)

子どもの意見も
活かしました！



双葉郡 教育復興 ビジョン

双葉郡のこれからの教育のあり方を、
双葉郡教育長会が中心になってまとめたものです。

持続可能な地域づくりに貢献し、
全国や世界で
活躍できる人を育てます

双葉郡教育復興に
関する協議会
(2012年12月～2013年7月)

双葉郡教育復興
ビジョン推進協議会
(2013年12月～)

P.5-6を
ご覧ください

「ふるさと創造学」 の推進

ふるさとの伝統と文化を見つめ直し、地
域の人たちと一緒に復興に取り組みながら、
ふるさとの未来をみんなで考えていきます。
今年度から郡内の小・中・高校の授業で
取り組み、その成果を発表する場を作って
いきます。

地域の復興

子どもたちの教育をまんな中にして、地域
の人みんなが力を合わせた双葉郡の復興を
目指します。
企業やNPOと手をつなぎ、地域を活性化
する方法を考えていきます。

子どもたちも
参画します！

学校と学習 の支援

双葉郡の学校に通う子ども、避難先にいる
子ども、県外で生活する子どもみんな「ふたば
の子」です。
双葉郡の子どもたちを受け入れる学校の
設置や、避難先での支援を考えながら、ふ
たば独自の教育を発信していきます。

「中高一貫校」の設置

教育復興ビジョンを体現する学校を、郡内に設置します。
2015年度の開校に向けて準備中です。

未来について話そう。



これからの教育を皆で考える 子供未来会議を行ってきました。

「双葉郡教育復興ビジョン推進協議会」では、双葉郡のすべての子どもと大人が双葉郡の教育復興について考え、対話する場として、2013年9月から8回にわたり「子供未来会議」を開いてきました。会議と言っても堅苦しくなく、自由で楽しい雰囲気です。子ども、保護者、先

生や教育長も一緒にテーブルを囲んで、双葉郡のこれからの教育や理想の学校をテーマに話し合い、模造紙にペンでお互いの言葉を書きとめていきます。最後に発表を行って、各グループの意見を交換し合いました。

最初はうまく話せなくても大丈夫。ゆっくり話に耳を傾けます。



「留学したり、外国の人たちと交流しながら、復興に向けた活動を世界に発信していきたい。」



一人ひとりの想いを詰めこんで、一枚の模造紙に上げます。

「子どもも大人も、本音を話せる場をもつことが大切だと思う。」

浪江町の教育長さんも、子どもたちと同じ目線で熱心に語ります。



「世界とつながる」「体験を活かした授業」、理想の教育が次々出てきます。



子供未来会議で出てきた子どもたちの声です。

「見つけた夢を自分で叶えていくために、自分の力で考えて行動できる授業を受けたい。」

全8回で、子どもたち、保護者、先生など、全部で556人が参加しました。



勉強、部活、友達……。毎日考えていることを本音で話すのも大事です。



「学校には、地域の人たちの寄りどころになる場所があるといい。」



第2回の様子。大熊中学校の仮設校舎のある、会津短大の体育館で行いました。(会津若松市)

「机にしばられる勉強だけでなく、実際に体験したり、生徒同士で教え合うような『動く授業』がいい。」



第6回は広野町で行われ、たくさんの子どもたちが参加しました。

「未来に誇れるまちづくりをしたいから、地域の歴史と伝統文化について学びたい。」

福島大学の学生さんたちもお手伝いしてくれました。



「自由な学校!」大勢の前で発表するのも、大きな学びです。



「はなればなれになってしまった友だちと再会して一緒に勉強できたら、笑顔になれる。」

参加者の声



参加して、自信になりました!

木村元哉くん

私はこの「子供未来会議」を通して、自分の町だけでなく、双葉郡や福島県の復興について多くの事を知ることができました。多くの人と議論を重ね、行動したこの経験は、「自分も少しは復興の役に立っているのではないか」という自信とチャンスをくれました。

この会議の特徴でもある「子どもから積極的に意見を聞く」というスタイルは、これから学校生活を送る生徒たちにとっても、改めて学校について考える貴重な機会になったはずですが、そして単なるパフォーマンスではなく、大人も子どもも未来に向かって歩いていく、そんな場になっていると私は思います。

広野町出身、福島県立いわき総合高等学校の元生徒会長。この春、福島大学行政政策学類に進学。



双葉郡の先生たちが集まった会議も行いました。

子どもたちの声、皆さんの声が新しい教育づくりに生かされます。「子供未来会議」は今年度も開催予定です。ぜひ一緒に、ふたばの教育の未来を考えましょう。

ふ た ば の 授 業 で す。



地域をつくるアクティブな授業 ふるさと創造学が始まります。

「ふるさと創造学」は、双葉郡の学校が独自に行う、自分たちのふるさとの魅力を知り、復興に向けて発信するための授業です。ふるさとの課題をどう解決していくかを考え、この春、2014年度から、「総合的な学習の時間」の授業を使って双葉郡8町村の学校で取り組んでいます。

授業では、ふるさとの伝統文化を学んだり、地域の大人や企業の人、外国人な

どからお話を聞いたり、地域のことを調べて自分たちで発信したり、教室の中だけに留まらない行動型・体験型の学習を、各校で趣向を凝らして行っています。

すでにこれまで、避難先のいくつかの学校で「ふるさと創造学」のモデルになる授業が行われてきました。その一つ、浪江小学校の授業の様子をお伝えします。



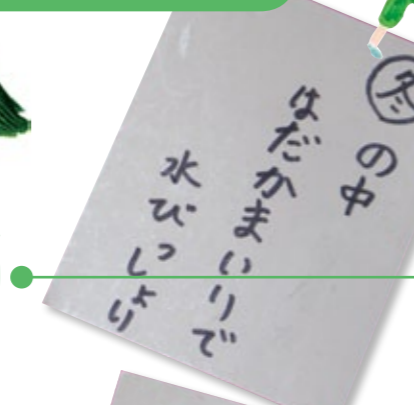
報道記者さんのアドバイスをもらって、復興に取り組む地域の人取材し、伝統文化や、大好きな日級グルメ「なみえ焼きそば」への熱い思いを新聞にまとめて、仮設住宅で配りました。

新聞記者 になりました。



ふるさとの カルタづくり をしました。

みんなで、浪江町に関するものや行事を盛り込んだ「なみえカルタ」を作りました。浪江の人だからこそ知っている言葉と絵がたくさんあって、地元の方たちも「わかるわかる!」と喜んでくださいました。カルタには、子どもたちの「浪江が大好き!」という気持ちに加え、「帰りたいけど帰れない」寂しい気持ちも少し表れています。



浪江町立浪江 小学校では、 こんな授業を しています。

避難先の二本松で開校した浪江小学校が取り組んできたのが「ふるさとなみえ科」という授業。子どもたちは地域の方たちと一緒に、年間約100時間、ふるさとについてさまざまな体験を通じて学んでいます。

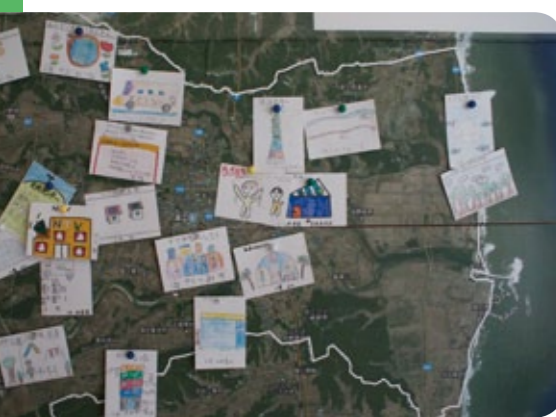


二本松市にある浪江小学校の仮校舎



浪江の伝統工芸「大堀相馬焼」の職人さんを訪ね、ふるさとのお話を聞きながら、器づくりを体験しました。地域を離れてもふるさとをつなぐ人の心意気にふれて、子どもたちも自分の未来を見つめ、考え始めました。

伝統工芸 に挑戦しました。



自分たちが住んでいた町を思い出しながら、大きな地図を作りました。どんな施設があったかななども貼り、理想のふるさとについて語り合いました。

ふるさとの地図 を作りました。



ふるさとをどんなふうに戻すか、町役場の方とも話し合い、構想をまとめました。それから早稲田大学の学生さんたちに協力してもらい、30年後を想像して、未来の浪江町の模型を作ってみました。

未来の 浪江町の模型 を作ってみました。

今年度は、各校で取り組む「ふるさと創造学」の発表会も行います。

この春から、双葉8町村の各学校で取り組まれる「ふるさと創造学」。今年度中に、折をみて学習の発表会を行うことも予定しています。(※開催日は決まり次第お知らせします。)

わたしも
応援しています。



財団として、高校生を対象とした奨学金「まなべる基金」や、自然体験・スポーツ・アート等を通じた支援「福島こどもカプロジェクト」など、多くの事業を推進。個人的にも福島の復興に強い想いを持って寄り添い続けている。

子どもたちの素晴らしさに、大人が奮起しています。

公益財団法人東日本大震災復興支援財団 専務理事

ゆたか
荒井優さん

「教育復興ビジョン推進協議会」に、当初より参加させていただいています。これからの双葉郡の教育のあり方を、教育長の先生方と話し合っていく時に、ふと「子どもたち自身はどう思っているのだろう」と考えました。そこから「子供未来会議」へとつながっていきました。

雑談のような話をしながら、次第に自分の意見を発表する不思議な時間ですが、子どもたちが目をキラキラさせながら自分の

言葉で話す姿に（小学校3年生の子が、驚くほど立派に話をしたこともあります）、大人が刺激されて頑張るところを何度も目撃しました。「最高な学校って？」という質問に、「好きな人がいる!!!」と書いてあったテーブルがありました。

双葉郡の復興は子どもから始まるのだと思っています。これからも、よろしく願います。

ふたばの教育に関するお問い合わせは、各町村の教育委員会までお願いします。

●川内村教育委員会

〒979-1201
福島県双葉郡川内村大字上川内字小山平15
コミュニティセンター内
電話:0240-38-3805
FAX:0240-38-3807

●葛尾村教育委員会

〒979-1602
福島県田村郡三春町大字貝山字井堀田287-1
葛尾村役場三春出張所
電話:0247-61-2850 FAX:0247-62-0282

●浪江町教育委員会

〒964-0984 福島県二本松市北トロミ573番地
浪江町役場二本松事務所
電話:0243-62-0301 FAX:0243-22-4223

●大熊町教育委員会

〒965-0873 福島県会津若松市追手町2番41号
大熊町役場会津若松出張所
電話:0242-26-3844
FAX:0242-26-3794

●楡葉町教育委員会

〒970-8036
福島県いわき市平谷川瀬1-1-1
電話:0246-25-5561
FAX:0246-25-5564

●双葉町教育委員会

〒974-8212
福島県いわき市東田町二丁目19-4
電話:0246-84-5210
FAX:0246-84-5212

●富岡町教育委員会

〒963-8025
福島県郡山市桑野2-1-1
電話:0120-33-6466
FAX:024-953-6304

●広野町教育委員会

〒979-0402
福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替35
電話:0240-27-4166
FAX:0240-27-4167